

1. 事業の位置付け

事務事業名	歴史的建造物保存・活用事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課 文化財保護担当		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'04	4 価値ある歴史的遺産を守り伝える環境をつくる	
根拠法令等	文化財保護法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」の移築復原工事が終了し、新名称が決定されて開館するとともに、市民に活用されています。		歴史的に価値のある建造物「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」を市民の貴重な歴史財産として保存・活用します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	移築復原工事進捗率			単位	%
	説明・算定式	H19:移築復原工事40%、H20:移築復原工事60% (工事費により割合を算出)				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	40	100		-	
	実績	73.4	100		-	
成果指標②	指標名	イベント開催回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	-	-		15	
	実績	-	-		2	

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	明治時代の歴史的建造物を市民の貴重な財産として、保存・活用するものであり、価値ある歴史的遺産を守り伝える環境づくりのために必要です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上位施策への貢献</li> <li>■ 市民満足度を高める方策</li> <li>□ 継続による成果向上の可能性</li> <li>■ その他</li> </ul>	市民の歴史的建造物への理解と認識の向上につながり、また、県内でも数少ない明治時代の洋風建造物を平塚の新しいシンボルとして位置づけ、まちの活性化につながることから有効です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>■ 受益者負担、補助額</li> <li>■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	登録有形文化財の有効活用を図るものであることから妥当です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>□ コスト削減の可能性</li> <li>■ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>□ その他</li> </ul>	管理運営については、指定管理者制度によることを検討し、効率性を高めました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		移築復原工事	移築復原工事	各種イベントの開催
財源内訳	国庫支出金	72,609	23,911	0
	県支出金	0	0	0
	起債	46,000	74,000	0
	その他 特財	0	13,537	2,050
	一般財源	22,439	37,441	30,184
事業費 (A)		141,048	148,889	32,234
執行率 (%)		39.43	63.32	0.00
内訳	職員 (人)	2.10	1.05	1.05
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		17,622	8,811	8,774
フルコスト (A+B)		158,670	157,700	41,008

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	③:遅れている 当初イベント開催回数を多く見込んだため。
	主な取組と成果	国の登録有形文化財(建造物)である旧横浜ゴム平塚製造所記念館を市民の貴重な財産として八幡山公園に移築・復原工事を進めた。また、平成21年4月の開館に向けて管理運営ワークショップ等も実施し、管理運営の基本方針を検討した。これらにより保存・活用に向けて準備を進めることができた。	国の登録有形文化財(建造物)である旧横浜ゴム平塚製造所記念館を市民の貴重な財産として八幡山公園に移築・復原しました。また、この建物の愛称募集を行い、「八幡山の洋館」に決定しました。さらに、効率的な管理運営を目的に指定管理者制度を導入しました。	国の登録有形文化財(建造物)である旧横浜ゴム平塚製造所記念館を市民の貴重な財産として保存・活用するため、平成21年4月1日に正式に開館しました。指定管理者制度による管理運営においては、課題に対して迅速な処理が行われました。また、同年10月には「八幡山の洋館～ピアノ・ヴァイオリンミニコンサート」を実施しました。 * なお、移築が終了し、管理は指定管理者によるため、平成22年度から事務事業として行っています。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	C:十分に成果をあげることができなかった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性の評価は高い。また、効率性の部分で、指定管理者制度を活用し、管理運営の効率化を図り、コスト削減にもつなげる。	事業分析の評価は高いです。但し、指定管理者制度の効果として、管理運営の効率化を図るとともに、一方で利用者増加、市民サービスの向上にむけたイベントの検討などが必要です。	指定管理者制度の効果として、管理運営の効率化を図るとともに、一方で利用者増加、市民サービスの向上にむけたイベントの検討などが必要です。

1. 事業の位置付け

事務事業名	無形文化財保存事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課 文化財保護担当		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'04	4 価値ある歴史的遺産を守り伝える環境をつくる	
根拠法令等	文化財保護法		
対象・受益者	民俗芸能継承団体、一般市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
郷土芸能が継承・保存され、後継者の育成が図られています。		郷土芸能の継承と後継者の育成を図るため、民俗芸能まつりの開催、演技指導者の派遣、文楽人形伝承団体及び指定重要無形文化財の保存に対する支援などを行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	民俗芸能まつりの開催回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	1	1	1		
	実績	1	1	1		
活動指標②	指標名	人形浄瑠璃芝居保存団体数			単位	団体
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	3	3	3		
	実績	3	3	3		
成果指標①	指標名	民俗芸能まつり参加団体数			単位	団体
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	5	5	5		
	実績	5	5	3		
成果指標②	指標名	民俗芸能まつり参加者数			単位	人
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	400	400	400		
	実績	379	394	369		

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市民ニーズ</li> <li>■ 事業目的の達成状況</li> <li>■ 市の関与の必要性</li> <li>□ その他</li> </ul>	長い歴史の中で守り伝えられてきた無形文化財について理解し、郷土の民俗芸能が保存・継承され、後継者の育成につながるものであるため、必要です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>
有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 上位施策への貢献</li> <li>■ 市民満足度を高める方策</li> <li>■ 継続による成果向上の可能性</li> <li>□ その他</li> </ul>	継続することが、無形文化財について市民の理解と認識の向上につながり、有効です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 低</li> </ul>	
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業の目的、対象、内容</li> <li>■ 受益者負担、補助額</li> <li>■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担)</li> <li>□ その他</li> </ul>	無形文化財の保存・継承を図ることは、郷土の文化についての理解につながるという考えから、継承団体に対する支援は妥当です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高</li> <li>○ 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務プロセス改善による効率化の方策</li> <li>■ コスト削減の可能性</li> <li>■ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討)</li> <li>□ その他</li> </ul>	事業の運営方法が検討課題です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高</li> <li>● 中</li> <li>○ 低</li> </ul>	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付	民俗芸能まつりの開催、補助金の交付
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	1,188	1,198	1,076
事業費 (A)		1,188	1,198	1,076
執行率 (%)		66.55	60.87	54.67
内訳	職員 (人)	1.20	1.20	1.20
	再任用 (人)	0.15	0.15	0.15
人件費 (B)		10,584	10,584	10,545
フルコスト (A+B)		11,772	11,782	11,621

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体による第3回ひらつか民俗芸能まつりを平成19年11月18日(日)に中央公民館大ホールにおいて開催した。当日は、多くの市民の来場があり、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めた。	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体による第3回ひらつか民俗芸能まつりを平成20年11月16日(日)に中央公民館大ホールにおいて開催し、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めました。	無形文化財の保存と伝承を目的に、市内の民俗芸能継承団体に補助金を交付した。また、第3回ひらつか民俗芸能まつりを平成21年11月15日(日)に中央公民館大ホールにおいて開催し、市内に伝わる郷土の民俗芸能について理解を深めました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	B: おおむね成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性の評価は高いが、効率性の部分で、事業の運営方法を検討することにより、コスト削減につなげる。	必要性、有効性、妥当性の評価は高いが、効率性の部分で、事業の運営方法を検討するとともに、後継者の育成が重要な課題です。	事業の運営方法を検討するとともに、後継者の育成を支援することが重要な課題です。